

令和5年度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分とB区分の両方
------	------------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじん うめわかけんのうかい 公益財団法人 梅若研能会	団体ウェブサイトURL http://www.umewakakenohkai.com
代表者職・氏名	理事長 梅若万紀夫	
制作団体所在地	〒 151-0066 東京都渋谷区西原1-4-2	最寄り駅(バス停) 代々木上原
電話番号	03-3466-3041	
ふりがな 公演団体名	こうえきざいだんほうじん うめわかけんのうかい 公益財団法人 梅若研能会	団体ウェブサイトURL 制作団体に同じ
代表者職・氏名	理事長 梅若万紀夫(梅若万三郎)	
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停) 制作団体に同じ
制作団体 設立年月	昭和49年10月11日財団法人、平成24年4月1日公益財団法人 認定	
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等
	理事長 梅若万紀夫(梅若万三郎)	理事11名 監事2名 評議員10名 事務局員2名
事務体制 (専任担当の有無)	他の事業と兼任の事務担 当者を置く	本事業担当者名 長谷川晴彦
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名 塚本忠男



<p>制作団体沿革</p>	<p>梅若研能会の前身である梅若万三郎家の歴史は長く、およそ600年に遡る。発祥については諸説あるが、左大臣橘諸兄を祖とする。 初世梅若万三郎は五十三世梅若実の長男だが、弟の六郎に本家を譲り、現在の万三郎家を起す。昭和3年1月に研能会を設立。以降昭和19年戦争激化のため休会するまで研能会155回を数えた。昭和21年染井松平家舞台で再開し、以後今日まで毎月公演を継続している。昭和49年10月に財団法人に改組し、平成24年4月内閣府の公益財団法人の認定を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●海外公演もベルギー、フランス、ドイツ、ラトビア、イギリス、ロシア等多くの国々で催行してきた。令和元年は久しぶりにドイツ、スイスの公演が実現。チューリッヒ、バーゼル、ベルリン、ケルンの4公演でいずれも好評を博した。 ●現理事長は、梅若万紀夫(三世・梅若万三郎) 					
<p>学校等における公演実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●平成21年から令和元年まで、幼児・小学生を対象に「事前講座付 親と子の能楽教室」を開催してきた。令和4年は国立能楽堂にて開催。演目は狂言「附子」、能「土蜘蛛」。子供は無料にて体験・鑑賞が出来るよう企画。親子併せて100名以上が参加した。(注)この事業は、一般財団法人伝統芸術振興会から継承。通算40回開催。 ●青山学院初等部の能楽鑑賞会を2年おきで受託。学校内でのワークショップ、能楽堂での鑑賞会を行う。令和4年度は11月14日に実施。演目は狂言「柿山伏」能「船弁慶」。 					
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>文化庁学校巡回事業の一環としての公演</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成22年 埼玉県立本庄特別支援学校 ●平成23年 京都市立鳴滝総合支援学校 ●平成元年 青森県立八戸第一養護学校 <p>直近の八戸第一養護学校での公演では、今回の希望調書同様に生徒と舞台上で共演する形で提案させて頂いた。学校側も積極的に企画に理解を頂き、車椅子の生徒を先生が押して共演を実現するなど、私たちにとっても画期的な公演を実現することが出来た。 参加してくれた生徒の思いを周囲のみんなが汲み取って舞台を作るという作業を通し、演者もそれまでの固定概念に縛られない可能性を発見し、大変貴重な経験を得ることが出来た。</p>					
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>				
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/-Fat7FqGsRg</p>				
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="928 1792 1005 1832">ID:</td> <td data-bbox="1005 1792 1453 1832"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="928 1832 1005 1870">PW:</td> <td data-bbox="1005 1832 1453 1870"></td> </tr> </table>	ID:		PW:	
ID:						
PW:						

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益財団法人 梅若研能会 】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	たいけんから学ぶはじめての能			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	狂言「附子」 作者不詳 能「土蜘蛛」 作者不詳 【プログラム構成】 1. 挨拶と狂言演目説明 (5分) 2. 狂言「附子」上演 (25分) 3. 狂言ワークショップ (10分) 4. 太鼓体験 (10分) (休憩10分) 5. 能の演目説明と全校生徒謡の稽古 (10分) 6. 能「土蜘蛛」上演 (25分) 7. 質疑応答 (5分)			
		公演時間 100 分		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	
演目概要	<ul style="list-style-type: none"> ●狂言「附子」は主が外出のため、留守居の太郎冠者、次郎冠者に砂糖を「附子」という猛毒であると偽り外出する所から始まる。二人は逆に「附子」に興味を持ってしまい、終には食べ尽くす。困った二人は帰宅した主に対し、とんでもない良い訳をする。 ●能「土蜘蛛」夜更け、病に伏せる源頼光の前に現れた不気味な僧は、自らが土蜘蛛であると名乗ると千筋の糸を投げかけるが、頼光の反撃にあい逃げてゆく。その知らせを聞いた頼光の家臣、独武者は土蜘蛛が住むという葛城山へ退治に向かう。 			
演目選択理由	<ul style="list-style-type: none"> ●狂言「附子」は太郎冠者、次郎冠者の掛け合いが軽妙で楽しめる上、やっちはいけないことをやりたくなくなる気持ちが子供にも理解しやすいようで、親子鑑賞会でも好評の演目であった。ただ、演者が三人出る為に予算を抑える目的で今まで採用しなかったが、より子供達に狂言の魅力を知ってもらいたいと、演目に採用する事とした。 ●能「土蜘蛛」は源頼光の土蜘蛛退治を題材とした内容で、鬼退治のようなわかりやすさと、蜘蛛の精の投げる糸の華やかさで、薪能など一般の公演でも人気のある作品である。また、役が多いため一部の役を生徒に演じて貰っても、作品の質を下げることなく上演することが可能なため、「生徒が出演することで、みんなが共感できる舞台」という意図が発揮できる作品として採用した。 			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<ul style="list-style-type: none"> ●狂言の演能後、役者とともに代表者(4名)舞台上がり、客席の生徒とともに狂言の泣き、笑いといった動きを体験する。コロナの影響で声が出せないような状況でも、狂言独特のバントマイムのような模写の動きを体験してもらうことができる。 ●代表者(2名)が舞台上がり、太鼓演奏の稽古を受ける。客席の生徒にもバチを持ったつもりで動きを真似してもらおう。 ●能「土蜘蛛」では胡蝶と頼光の演技の内容を簡略化することで、生徒がプロと共演することを可能にした。事前講座にて生徒の身長等を確認し、それに合った装束を持参。実際に能舞台で用いられている装束を身につけ、出演して貰う。また、後見、幕上げと入った公演に欠かせない裏方の仕事も子供に体験して貰う。 			
出演者	<ul style="list-style-type: none"> ●シテ方 梅若万三郎、梅若万佐晴、中村裕、青木一郎、遠田修、伊藤嘉章、加藤眞悟、八田達弥、梅若紀長、長谷川晴彦、梅若泰志、古室知也、梅若久紀、青木健一、中村政裕、梅若紀佳、梅若志長、萩原郁也、梅若雅一 以上19名より公演期間似合わせ11名を選定する。 ●ワキ方 2名 ●狂言方 4名 ●囃子方 4名 共に(社)能楽協会会員より選定する。 (例) ●ワキ方 野口能弘、野口琢弘、梅村昌功、村瀬堤、村瀬慧 ●狂言方 奥津健太郎、野口隆行、山本則重、山本則孝 ●囃子方 榎宅聡、栗林祐輔、飯富孔明、住駒充彦、大倉慶之助、柿原光博、徳田宗久、梶谷英樹 ※下線は重要無形文化財総合指定保持者 			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 21 名 スタッフ: 2 名 合計: 23 名	運搬	積載量: 1.2 t 車長: 4.6 m 台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無		前日仕込み所要時間		時間程度		
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出		
	10時50分	11時～11時30分		13時30分～15時10分	10分	15時30分～16時00分	16時		
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間程度です。								
本公演 実施可能日数目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</small>	6月	7月	8月	9月	10月				
	5日				10日				
	11月	12月	1月	計		45日			
	10日	10日	10日						
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。									
児童・生徒の参加可能人数	本公演			共演人数目安	8人(能の共演、舞台上で太鼓・狂言体験)				
				鑑賞人数目安	10人～600人				
公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出や がわかる写真)	通常は体育館のステージをバックとして、舞台を設置します(上の写真)。 舞台設置に必要な面積 横幅17メートル・奥行8.5メートル。 体育館の幅が広くバックヤードの目隠しが出来ない場合、体育館のコーナーを利用して設置したケースもあります(下の写真)								
									
<small>※採択決定後、採択団体へ図面等詳細の提出をお願いします。</small>									

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	8～600人
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>体育館でステージを使用せず、なるべく生徒が間近で装束や能面を見れる環境を作る。能舞台の空間は体育で用いるコーンなど、学校にある備品を用いて表現する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 挨拶・演者紹介(2分) 仕舞の実演(3分)・・・能の一部分を紋服で演技する事により、謡の声の力強さ、ハコビなど能独特の動きを体感してもらう。 能についての説明(5分)・・・本日のワークショップ並びに能公演で何を体験して貰うかの簡単な説明と、基本的な能についてのお話。 装束の着付けと解説(20分)・・・男性が女性の役を演じることが出来る能の特性を理解してもらうため、学校の先生に装束を着せ付けて見せる。また、この中で能の衣装や能面についての解説を行い、伝統的な工芸品についての説明、物を受け継ぐことの大切さを伝えてゆく。 出演候補者の選考(20分)・・・生徒から8名程度の代表者を選んで頂き、その代表者に面を掛けてのハコビ、謡の稽古を行い、プロと共演できる候補4名(胡蝶・頼光)を選出する。他の生徒にはその様を見ることで、能舞台に立つ上で必要な要素を知ってもらう。 <p>【休憩10分】</p> <ol style="list-style-type: none"> 演技の稽古(代表4名)、ハコビ・謡体験体験(全校生徒)(25分)・・・代表に選ばれた4名には、実際に演じる稽古を付け、更に本番参加の2名を選ぶ。 (選に漏れた2名は本番では後見、幕上げとして舞台を作る裏方として参加する) 同じ時間に参加生徒全員にはハコビ(摺足)を指導、体験してもらうことで能の動きには、日本古来身体法があるのだということを知ってもらう。 代表者実演(10分)稽古古をした代表者がみんなの前で実演。その成果で当日の配役を決める。 終わりの挨拶と当日出演者への説明(5分)・・・当日出演者には公演当日に事前稽古を行うので、それに対する案内を行う。 (合計100分) 		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●まず、ワークショップの最初で先生に装束を着けることで、生徒には見慣れている先生が能の女性に変身出来たという驚きを与えたい。そして、能装束、能面を着けた先生が動きを見せることで、能舞台上で行われる特別な動きに関心をもって貰いたいと考える。] ●次に、本公演で能楽師と共演できる生徒を代表者から選出する。オーディションのような形を取ることで、能に関心を持ち、より参加に意欲的な子供が自分を表現できる機会を設ける。ただし、ワークショップの後自分で稽古に取り組んでいかななくてはならないため、選出には担当教員との相談を行うようにする。 ●他の生徒はこのオーディションの様子を目にすることになるため、誰が選ばれるのか代表者の取り組む姿に興味を持ち、代表者がどのように本公演を勤めるのか、関心を持って公演を鑑賞するようになる。本公演で舞台上に立てるのは一部の生徒になってしまうが、みんなが共感できる公演になるためのワークショップと位置付けている。 		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>なるべく間近で見えて貰えるよう、場合によっては子供が取り囲んで見れるような形をとる。ハコビの稽古など大人数を対象として表現する場合は、ステージ上を使用する事もある。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		